

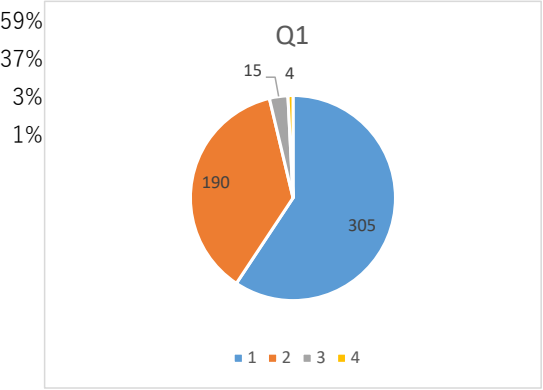
2025年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ
調査対象：566名（2025年度9月卒業生23名、2025年度3月卒業生543名）
調査実施期間：2025年9月1日～9月30日、2026年3月1日～3月31日
回答者数：514名（2025年度9月15名、2025年度3月499名）
回答率：90.8%

以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

●学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

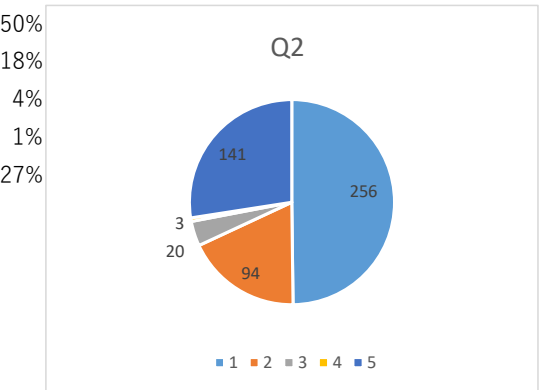
1. 満足	305
2. どちらかといえば満足	190
3. どちらかといえば不満	15
4. 不満	4
計	514



Q2

●ゼミ

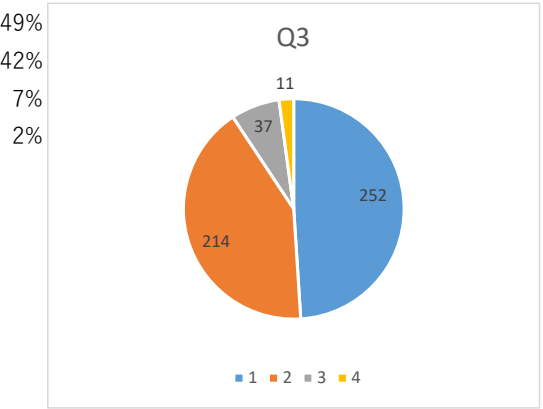
1. 満足	256
2. どちらかといえば満足	94
3. どちらかといえば不満	20
4. 不満	3
5. 未所属	141
計	514



Q3

●就職活動支援

1. 満足	252
2. どちらかといえば満足	214
3. どちらかといえば不満	37
4. 不満	11
計	514

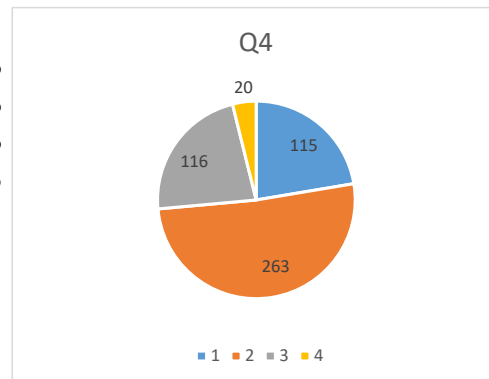


Q4

次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

●教養と外国語について

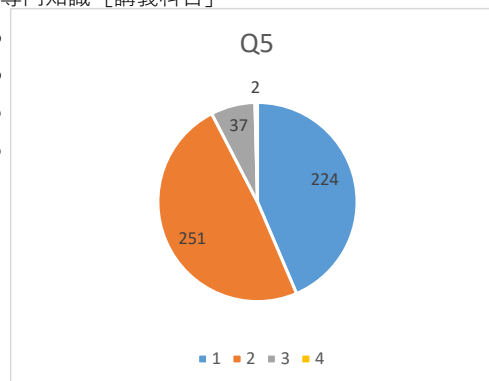
1. かなり身についた	115	22%
2. ある程度身についた	263	51%
3. あまり身につかなかった	116	23%
4. 全く身につかなかった	20	4%
計	514	



Q5

●経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

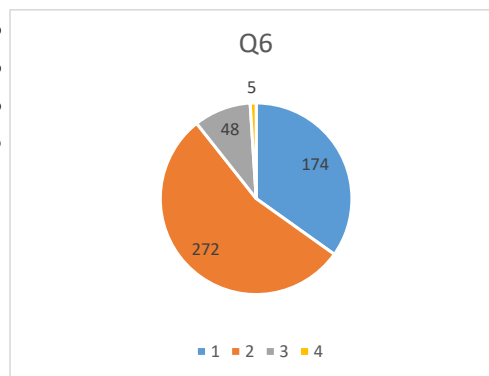
1. かなり身についた	224	44%
2. ある程度身についた	251	49%
3. あまり身につかなかった	37	7%
4. 全く身につかなかった	2	0%
計	514	



Q6

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [講義科目]

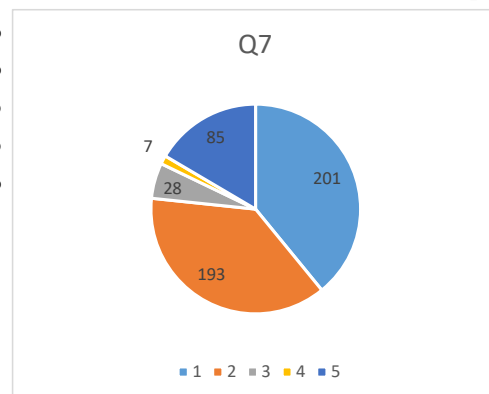
1. かなり身についた	174	35%
2. ある程度身についた	272	55%
3. あまり身につかなかった	48	10%
4. 全く身につかなかった。	5	1%
計	499	



Q7

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	201	39%
2. ある程度身についた	193	38%
3. あまり身につかなかった	28	5%
4. 全く身につかなかった。	7	1%
5. 未所属	85	17%
計	514	



【2025 年度 経営学部卒業生アンケート結果からの分析】

2025 年度の経営学部卒業生アンケート結果について、その概要と概括的な分析を試みた。

1. 調査概要

調査概要は以下の通りである。

調査対象：566 名（2025 年度 9 月卒業生 23 名、2025 年度 3 月卒業生 543 名）

調査実施期間：2025 年 9 月 1 日～9 月 30 日、2026 年 3 月 1 日～3 月 31 日

回答者数：514 名（2025 年度 9 月 15 名、2025 年度 3 月 499 名）

回答率：90.8%（2024 年度 89.1%、2023 年度 89.6%：以下同様）

2. 分析結果

まず、「入学後の総合的な満足度」として、「学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）」、「ゼミ（Q2）」、「就職活動支援（Q3）」の各質問項目についての調査結果を見てみたい。

（1）学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）

「満足」が 59%（54%、46%）、「どちらかといえば満足」が 37%（42%、46%）、「どちらかといえば不満」が 3%（4%、7%）、「不満」が 1%（1%、1%）となった。「満足」は 2023 年度以降、3 年連続で増加している。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた肯定的評価も 96%（96%、92%）と増加傾向にある。一方、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた否定的な評価は 4%（5%、8%）と、減少傾向にある。したがって、専門分野の講義科目に対する卒業生の満足度は高く、その水準もここ 3 年間増加しているといえる。

（2）ゼミ（Q2）

「満足」が 50%（52%、43%）、「どちらかといえば満足」が 18%（17%、26%）、「どちらかといえば不満」が 4%（4%、6%）、「不満」が 1%（1%、2%）、「未所属」が 27%（26%、23%）であった。「未所属」以外を選んだ 73%（74%、77%）の学生に限ると、内訳のうち「満足」が 69%（71%、56%）、「どちらかといえば満足」が 25%（22%、34%）である。ゼミ所属学生は 2025 年度も総じて満足しているといえる。

「未所属」を選んだ学生は 4 年次だけゼミ未所属なのか、2 年次から卒業までゼミ未所属なのかが不明であるが、2025 年度は 27%であり、2023 年度から増加傾向にある。2026 年度より演習アウトプットが設置されており、その効果の検証が待たれる。引き続き、他のゼミ活性化策についても継続して検討・実施することが必要であろう。

（3）就職活動支援（Q3）

「満足」が 49%（50%、44%）、「どちらかといえば満足」が 42%（41%、44%）、「どちらかといえば不満」が 7%（8%、10%）、「不満」が 2%（2%、2%）という結果であり、91%（90%、88%）

が肯定的評価であった。また、「どちらかといえば不満」「不満」という否定的評価が9%（10%、12%）と、近年連続で減少している。2025年度に本学がビズリーチ・キャンパスに採用されるなど、就職活動支援の継続とその効果検証が待たれる。

次に、「教養と外国語（Q4）」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識（Q5）」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[講義科目]（Q6）」、「同[ゼミ]（Q7）」において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果を見てみたい。なお、この3項目は、経営学部ディプロマ・ポリシー（DP）に即した質問である。

（4）教養と外国語（Q4）

「かなり身についた」が22%（21%、14%）、「ある程度身についた」が51%（50%、53%）、「あまり身につかなかった」が23%（24%、27%）、「全く身につかなかった」が4%（4%、6%）となった。「かなり身についた」と「ある程度身についた」を合わせた値が73%（71%、67%）と、2023年度以降改善傾向にある。しかしながら、「あまり身につかなかった」「全く身につかなかった」という否定的評価が依然として約3割を占めるのは例年同様であり、本学の教養と外国語教育の課題を引き続き示す結果となっている。

ただし、この課題が教養教育と外国語教育のいずれにおいてより顕著に現れているのかを把握するためには、教養科目と外国語科目を分離した形でアンケートを設計・実施する必要があるかもしれない。英語を含む外国語教育は習得に時間を要するだけでなく、学習成果が個人の適性にも大きく左右される領域でもある。本学では、英語に対する苦手意識を有する学生が多く、教養教育と外国語教育それぞれの特性を踏まえた上で、より効果的な教育内容および支援体制の検討が求められる。

（5）経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目]（Q5）

「かなり身についた」が44%（42%、33%）、「ある程度身についた」が49%（50%、55%）、「あまり身につかなかった」が7%（6%、11%）、「全く身につかなかった」が0%（2%、2%）であった。「かなり身についた」「ある程度身についた」と肯定的に評価した者は2024年度と同様に9割程度であり、十分な修得実感があったといえる。

（6）現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[講義科目]（Q6）

（7）現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ]（Q7）

これまで、DP3に対応する質問はゼミに関する1問であったが、2025年3月実施分より、講

義科目 (Q6) とゼミ (Q7) の 2 問に分けた。結果は、「かなり身についた」が講義 35% (31%) ・ゼミ 39% (36%、29%)、「ある程度身についた」が講義 55% (54%) ・ゼミ 38% (39%、47%)、「あまり身につかなかった」が講義 10% (13%) ・ゼミ 5% (7%、16%)、「全く身につかなかった」が講義・ゼミとも 1% (2%) であった。また、Q7 に関しては、「未所属」以外を選んだ学生に限ると、内訳のうち「かなり身についた」が 47% (43%)、「ある程度身についた」が 45% (46%) であった。以上より、2025 年度は過去 2 年間よりも、問題発見・解決能力の修得実感が全体的に増しているといえる。また、「かなり身についた」という実感は講義科目よりゼミの方が高かった。

3. 総括

2025 年度卒業生の満足度及び修得実感に関する卒業時の意識においては、ほぼ例年通りの高い評価が得られた。中でも問題発見・解決能力の修得実感については、2024 年度のアンケートより講義科目とゼミを分けたところ、ゼミの方が高い修得実感が得られやすいことが判明しており、その傾向は 2025 年度も同様であった。今後の主な課題としては、例年と同じく教養と外国語の修得実感の向上に加え、ゼミ所属の利点の周知、各ゼミ活動のさらなる充実が挙げられる。